

9/12（金）那覇スタディツアー

14：00 宜野湾市嘉数（かかず）高台

日本軍の主陣地だった嘉数高台で川満昭広さん（環境ネットワーク代表）のお話を伺う。その後、普天間基地を見渡せる展望台で吉川秀樹先生のお話を伺う。

15：30 名護市瀬嵩（せだけ）浜

吉川秀樹先生に辺野古新基地を取り巻く現状と環境問題についてお話を伺う。

16：30 辺野古漁港

辺野古新基地建設状況の見学。

バスの中で琉球王国の歴史を紹介する吉川秀樹先生

吉川先生はアメリカとカナダの大学・大学院で人類学を学び、タイ北部でフィールドワークを行い、国家、民族、開発の関係について研究。1999年に沖縄に戻り、米軍基地と環境の問題に「市民」の立場から取り組んでおられます。





嘉数（かかず）高台にて

環境ネットワーク代表として平和教育や環境問題の市民運動を行ってきた川満昭広さんが、沖縄戦で日本軍が主陣地を置いた嘉数高台にある日本軍による壕の隣で戦時状況下のお話しをしてくださいました。長期戦の中でとりわけ母子などの弱者が苦しみながら徐々に命を落としていく状況は、現在の世界各地でも続いています。沖縄戦において最も戦死率が高かった地元市民は、0-5歳の子供でした。



少なすぎる鉄筋で作られた日本軍のトーチカ（身を守るための砦）。
当時の資材不足を象徴しています。

一方、米軍は日本本土攻撃の基地として、またゆくゆくは東アジアにおける
貿易の権益掌握をも視野に入れて、何としても沖縄を入手すべくアジア最大
規模の上陸作戦を展開しました。

米軍海兵隊普天間飛行場

オスプレイの発着状況を実際に見ることはできませんでしたが、近くの大学で教鞭を取る吉川さんはオスプレイの騒音下では声が聞こえないため、授業を一時中断しなくてはならない、と教えてくださいました。

1997年に日米間で同意した代替基地拠点が提供されない限り、普天間からの移転や基地の閉鎖はないというのが政府の立場です。





瀬嵩（せだけ）浜からみる辺野古の現状

辺野古新基地が完成すれば2本の滑走路（各1,800m）を有し、70機以上の航空機を収容する他、港湾機能や弾薬庫も備える米海兵隊の軍事拠点となる。



環境問題への提言

国内で最も海洋生物多様性が豊かな湾である辺野古周辺には、ジュゴンやアオサングなどの絶滅危惧種 262 種を含む 5,300 種の生物が生息しています。2013年～2020年には、沖縄の住民や日米環境NGOが原告となり、アースジャスティスが原告側弁護人となり、米国防総省を相手どった「ジュゴン訴訟」が行われました。海外の事柄や動物を巡る事件に米国国家歴史保存法が適用された初の訴訟でした。国防総省は「基地は日本政府が建設しているので、訴訟は成り立たない。国防総省は一切の責任を負わない」と反論していましたが、米国連邦地裁は、国防総省には基地によるジュゴンへの影響を回避する義務があると判断。2008年、米連邦地方裁判所は米国国防総省に対し、基地建設がジュゴンに及ぼす影響について予測評価を行うよう命じました。

Notes

国防総省は調査を行い、基本的には日本政府の行なった環境アセスを取り入れる形で、ジュゴンへの影響は回避できるという見解を示しました。しかし、その過程において、日本の環境アセスを痛烈に批判していました。



辺野古漁港からみる辺野古新基地

辺野古新基地の建設地を反対側からも見学。建設予定の滑走路（1,800m）は短すぎて実用性が疑問視されていますが、それでも広大な面積を埋め立て用としている規模感に圧倒されます。

自然の中にぽつりぽつりと民家が点在する平和な雰囲気周辺の地域において、巨大軍事基地案はとても「浮いた」存在のように感じられ、安全保障問題や軍事施設問題を体感できる貴重なスタディーツアーとなりました。

とても分かりやすい英語で
日英逐次通訳を務めて下さった
金美穂さん。



講師を務めていただきました
川満さん、吉川さん、
ありがとうございました。

